デフアスリートを
ささえる

競技別手話言語通訳ガイド

［バドミントン編］ Badminton

目次

P.1	目次
P.2	ごあいさつ
P.3	デフリンピックが日本で開催
P.4	スポーツ分野で通訳するための準備
P.5	ろう者とバドミントン
P.6	主な大会
P.7～8	バドミントンの基礎知識
P.9	バドミントンのコート表
P.10	バドミントンの用具
P.11	バドミントンのユニフォーム
P.12～15	デフバドミントンの情報保障
P.16～18	バドミントン用語の手話表現

ごあいさつ

全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会 委員長
太田 陽介

スポーツ庁は「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツライフを通じて、スポーツ参画人口の拡大を目指しています。アスリートのプレーを「みる」、ボランティアの「ささえる」活動を通して、「する」スポーツへの興味が喚起され行動へとつながることが期待されており、きこえない、きこえにくい人のスポーツ活動を通した社会参加と共生社会の実現にも通じる取組になります。

2025 年に東京・福島・静岡で開催されるデフリンピック（主催 / 国際ろう者スポーツ委員会（ICSD））は、日本では初めての開催であり、また 1924 年にパリで最初のデフリンピックが開催されてから100周年の節目となる大会になります。
この大会の開催を契機に、手話言語の理解・普及・拡大など従来からの情報保障の推進・強化に加え、スポーツ施設や競技大会において、デジタル技術を活用した、新しいコミュニケーションツール等の開発が進んできています。一方で、きこえないアスリート（デフアスリート）がスポーツをするにあたっては、スポーツ関係者によるきこえないことや手話言語への理解促進とともに、デフアスリートのスポーツ活動をささえる手話言語通訳者の育成が重要になっています。

そこで、本委員会では令和２年度より、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成を目的として、スポーツ庁の「障害者スポーツ推進プロジェクト」を受託しており、令和６年度は、専門種目としてテニス競技、柔道競技、バドミントン競技、ボウリング競技、ゴルフ競技、ライフル射撃競技を解説するパンフレットを作成しました。

スポーツ活動の現場で通訳を行う方々の知識と技術の向上にこれらの手引きが役立つことを願っています。

デフリンピックが日本で開催

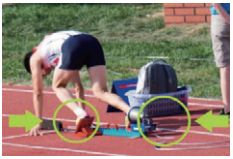
2025年に東京でデフリンピックが開催

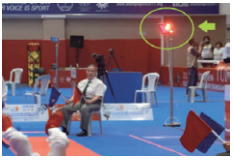
2025年11月15日～26日に東京・福島・静岡でデフリンピックが開催されます。

デフリンピックとは？

きこえない選手の国際的なスポーツ大会です。
デフ（Deaf）とは、英語で「きこえない」という意味です。
オリンピックと同じように４年に１度、夏季大会と冬季大会が２年ごとに交互に開催されます。競技ルールはオリンピックと同じですが、きこえない選手のための視覚的保障がなされた競技環境があることがデフリンピックの特徴です。

視覚的保障とは？





音や審判の合図がきこえないという、選手にとって不利な状況を視覚的に補うことです。
デフリンピックでは、陸上競技や水泳競技のスターターの音はフラッシュランプを使って選手にスタートを知らせています。サッカーやラグビーでは審判が笛を吹くとともに、旗または片手をあげることで反則などが起きたことを選手に知らせます。

国際的なデフスポーツ大会について

きこえない選手の国際的なスポーツ大会には、デフリンピックの他に、国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）公認の世界ろう者選手権大会やアジア太平洋ろう者スポーツ連合（APDSC）主催のアジア太平洋ろう者競技大会等があります。

URL：ICSD公式ホームページ http://www.ciss.org

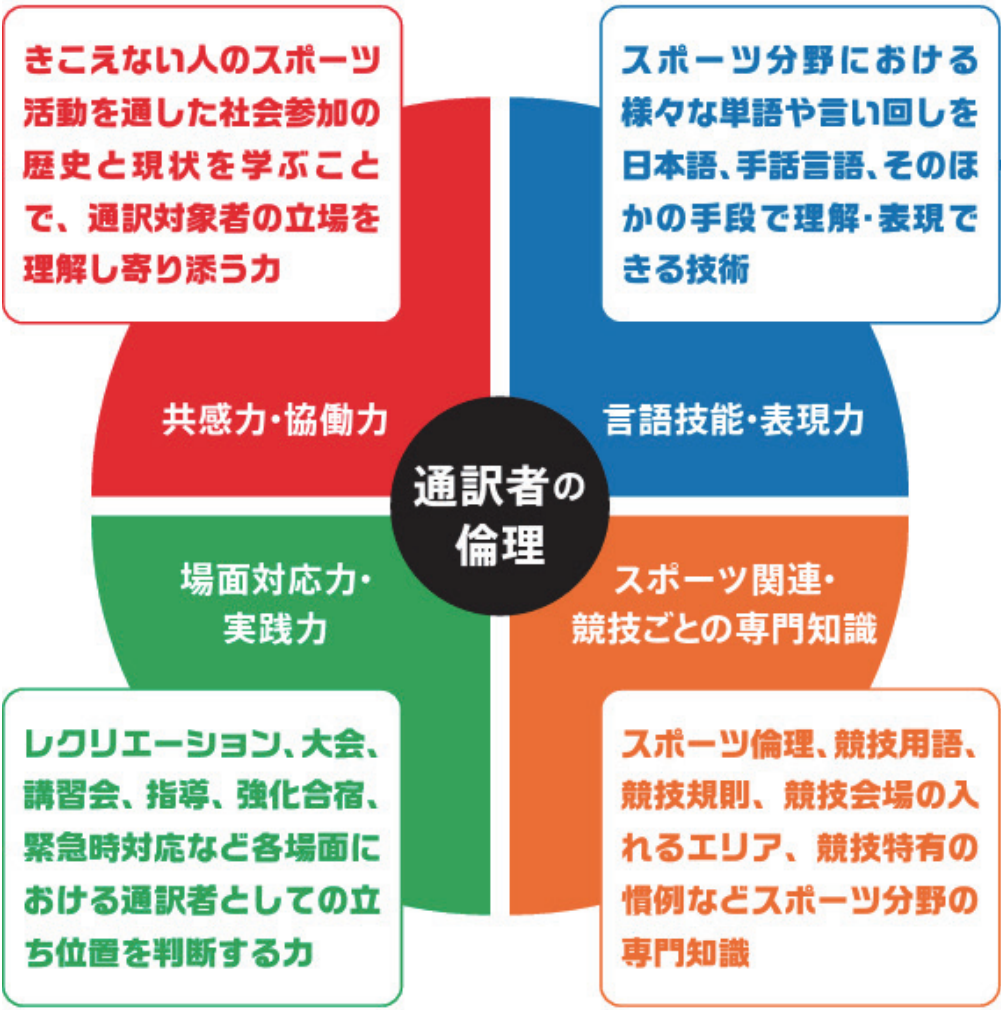
デフスポーツに関する情報

一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会では、デフスポーツに関する情報発信を行っています。

URL：https://www.jfd.or.jp/sc/

スポーツ分野で通訳するための準備

きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加を支える手話言語通訳者が、通訳者としての倫理観を備えた上で準備しておくべき知識と技術を、「共感力・協働力」「言語技能・表現力」「場面対応力、実践力」「スポーツ関連・競技ごとの専門知識」の４テーマに整理しました。



このガイドブックでは特にバドミントン競技に必要な知識を紹介します。

ろう者とバドミントン

デフバドミントンとは

デフバドミントンとは、きこえない・きこえにくい人によるバドミントンのことです。

ルールは一般のバドミントンと同様で、コートの広さや用具、競技形式なども同じルールで行われます。

シャトルを打つ音やダブルスを組む相手の足音などがきこえない状況でプレーが行われるため、視覚情報を最大限に活用し、相手の動きやシャトルの軌道を読みながらプレーします。

そのため、高度な集中力や動体視力、空間認識能力が求められます。

主な大会

国内大会

・日本ろう者ランキングサーキット大会
・日本ろう者バドミントン選手権大会
・全国ろうあ者体育大会
・他団体主催の大会（関東ろう者体育大会など）

国際大会（ICSD公認大会含む）

大会名	第24回夏季 デフリンピック競技大会	第6回アジア太平洋 デフバドミントン選手権大会	第2回アジア太平洋デフユース バドミントン選手権大会
開催年	2022年	2022年	2022年
場所	ブラジル（カシアス・ド・スル）	タイ（パタヤ）	タイ（パタヤ）
結果	銀メダル獲得 ・混合団体戦（同大会初）	銀メダル獲得 ・女子シングルス ・女子ダブルス ・混合ダブルス 銅メダル獲得 ・男子シングルス ・男子ダブルス	銀メダル獲得 ・女子ダブルス 銅メダル獲得 ・女子シングルス（2名）

大会名	第6回世界デフ バドミントン選手権大会	第3回世界デフユース バドミントン選手権大会	第10回アジア太平洋 ろう者競技大会
開催年	2023年	2023年	2024年
場所	ブラジル（パラ・デ・ミナス）	ブラジル（パラ・デ・ミナス）	マレーシア（クアラルンプール）
結果	銀メダル獲得 ・混合団体戦 銅メダル獲得 ・男子シングルス ・男子ダブルス ・女子ダブルス	金メダル獲得 ・女子ダブルス ・混合ダブルス 銀メダル獲得 ・男子シングルス	金メダル獲得 ・混合団体戦（同大会初） ・女子ダブルス 銅メダル獲得 ・男子ダブルス ・混合ダブルス

※ユース大会は12〜19歳までの若手の選手を対象とした大会

バドミントンの基礎知識

ルール

バドミントンはラケットとシャトルを使った競技で、ネットを挟み、1対1のシングルスまたは2対2のダブルスで試合を行う。

1. 全種目の試合において2ゲーム先取の3ゲームで行う。
2. 相手がフォルトする、または、シャトルが相手コートに落ちるなど、ラリーに勝った方が得点となる。
3. ラリーを重ね、21点を先取した方がそのゲームの勝者となる。
4. スコアが20点オール（同点）になった場合は、その後最初に2点リードするか、先に30点をとった方が勝ちとなる。
5. 一方のポイントが11点になったときに、1分以内の休憩時間が設けられる。
6. ゲーム間は2分以内の休憩が設けられる。

「フォルト」とは

反則のこと。相手プレーヤーに1点が入り、サービス権が移動する。

（例）フォルトとなるケース

・ネットの上を越えなかったとき

・天井または壁に触れたとき

・プレーヤーの身体または着衣に触れたときなど

「レット」とは

やり直しのこと。どちらにも点数は入らず、もう一度プレーを再開する。
レットになった場合は、その前のサービス以降のプレーを無効とし、レットになる直前のサーバーがやり直しを行う。

（例）レットになるケース

・相手が構えていないときにサーブをしたとき

・サービスのときレシーバーとサーバーの両方がフォルトをしたとき

・サービスが打ち返されて、シャトルが
　① ネットの上に乗ったとき
　② ネットを越えた後、ネットにひっかかったとき

参考資料：公益財団法人 日本バドミントン協会 規則
https://www.badminton.or.jp/rule/docs/rule_20241219.pdf

バドミントンの種目

・男子シングルス ・男子ダブルス	・女子シングルス ・女子ダブルス	・混合ダブルス

混合団体戦

夏季デフリンピックやアジア太平洋ろう者競技大会などでは、男女混合で競う団体戦が実施されることがあります。

試合の流れ

・混合団体戦では、試合の順番は特に定められていません。
大会によって、試合の構成や人数などのルールが異なります。

・試合開始前に、各チームの監督がオーダー表に選手名を英語で記入し、審判（SD）に提出します。

・予選リーグでは、５試合を行い、３勝したチームが勝利となります。
試合の順番はその都度決定されます。

・決勝トーナメントでは、先に3勝した時点で試合終了（チームが勝利）となります。

予選リーグの順番の例

大会例：２つのシングルス（２単３複）と３つのダブルスの計５試合

順番例：第１複➡第１単➡第２単➡第２複➡第３複

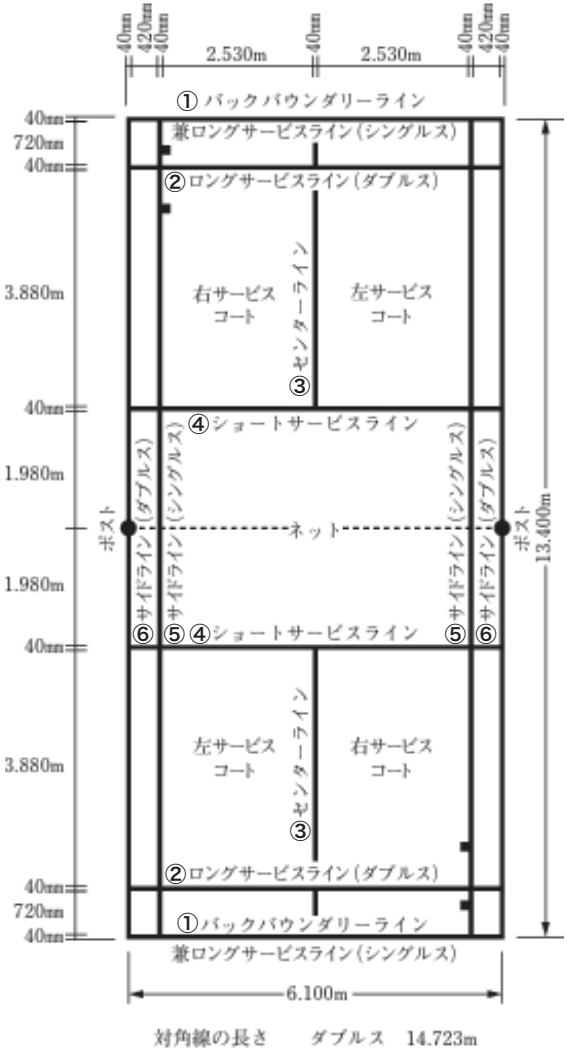
（参考）2022年 夏季デフリンピックの混合団体戦では、以下の順番で行われました。

1. 混合：ダブルス
2. 男子：シングルス
3. 女子：シングルス
4. 男子：ダブルス
5. 女子：ダブルス

バドミントンコート表

バドミントン競技は、季節を問わず、体育館などの室内で行われます。
シャトルの飛行はわずかな風の影響も受けるため、窓は常に締め切り、外部からの風を遮断します。
また、太陽光が差し込むとシャトルが見えにくくなるため、カーテンや暗幕で日光を遮り、室内照明のみを使用します。

コートの大きさ、サイズ、各ラインの名称について



①バックバウンダリーライン兼ロングサービスライン（シングルス）
よくエンドラインという呼び方をされます。ネットを前に見てプレーヤーの後ろのラインです。

②ロングサービスライン（ダブルス）
バックバウンダリーラインの少し内側にあります。

③センターライン（共通）
コートの真ん中のラインです。サービスの際に使われるほか、コートの真ん中を把握するために使われます。

④ショートサービスライン（共通）
サービスの際に使われます。

⑤サイドライン（シングルス）
シングルの際のサイドラインです。ダブルスのサイドラインに対して少し内側にあります。

⑥サイドライン（ダブルス）
ダブルスの際のサイドラインです。シングルスのサイドラインに対して外側にあります。

画像引用元：競技規則
公益財団法人 日本バドミントン協会

バドミントンの用具

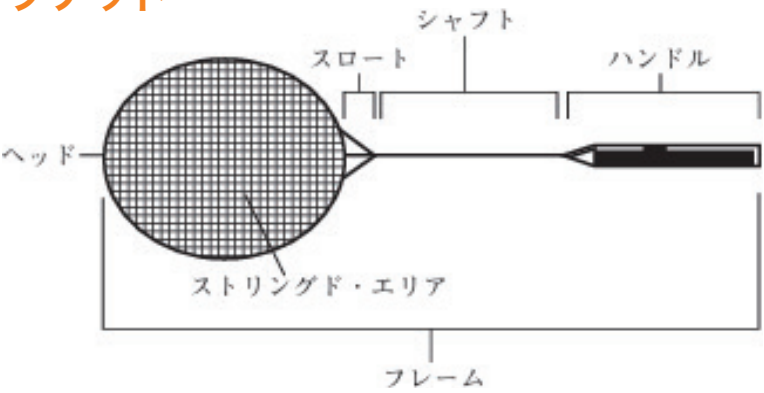
ネット

コート中央でのネットの高さは1.524mm、ダブルス用サイドライン上では1.550mmです。
※ネットが中央でたるんでいるため、高さが異なっています。

シャトル

16枚の羽にコルクの台をつけた構造になっています。
シャトルの長さ：62mm～79mm
羽の横幅：58mm～68mm
重さ：4.74g ～5.50g

ラケット



各部分の名称と説明

ハンドル（グリップ）：プレーヤーがラケットを握る部分です。グリップとも呼びます。
ストリングド・エリア（ガット面）：プレーヤーがシャトルを打つ、網状にガットが張られた部分です。
ヘッド（フレーム）：ストリングド・エリアの外枠部分を指します。
シャフト：ハンドルとヘッドを繋ぐ棒状の部分です。
スロート（ラケット接続部）：シャフトとヘッドを繋ぐ、T字型の接続部分です。（スロートのないラケットもあります）

※ラケットは、以下の寸法規定を満たす必要があります

全長（フレーム）：680mm以内
ヘッド：長さ：280mm以内　横幅：230mm以内
ガット：横幅：220mm以内

出典：競技規則
公益財団法人
日本バドミントン協会

バドミントンのユニフォーム

バドミントン大会では、選手が着用するユニフォームについては、以下の規定があります。

基本規定

・対戦相手や観客に不快感を与えない服装であること。
・競技用ウェアとシューズを着用すること。

大会別規定（例）

団体戦：相手チームのユニフォームと色が重複しないよう、色が異なる２種類のユニフォームを用意することが推奨されている。

個人戦：大会公認のユニフォームであれば、個々の選手が自由に着用できる。

ダブルス：ペアの選手は同じユニフォームを着用する必要がある。

デフバドミントンの情報保障

バドミントン競技における手話言語通訳

バドミントン競技において手話言語通訳者は、デフリンピックをはじめとする遠征や合宿において、トレーナー・コーチからの指示、練習相手からのアドバイス、ミーティング時など、チーム内の様々なコミュニケーション場面で通訳業務を行います（オンライン通訳も含む）。

遠征や合宿などのチーム帯同時は長時間の業務になることが多く、手話言語通訳者自身の体調管理能力やスタミナ、精神力が求められます。

また、競技に関する知識を熟知できるよう学ぶ姿勢や、興味を持つことも大切です。

チームでの手話言語通訳を行う上で常に意識する点としては、選手ファーストであること、監督やコーチの意向を確認すること、そしてデフバドミントン協会に判断を仰ぎ、指示に従うことです。

大会時コートサイドで通訳する場合の服装等

・動きやすい服装
・協会から支給のロゴ・スポンサー名入りのシャツ、ジャージ
・運動靴（室内履き・体育館シューズ）

練習や試合において、チーム全体が集まった際に手話言語を必要とする場面

・練習や試合の前後に行う挨拶やまとめ

練習や試合の前後、挨拶やまとめなど、チーム全体が集まった時に手話言語での伝達が必要となります。

・監督やコーチの話を全体に伝える必要のある時

監督やコーチが音声言語のみで話をする場合は、その指示や注意を伝えるために手話言語が必要になります。

（きこえるスタッフ、手話言語を未だ習得していない選手に対して、情報保障を行う）

※基本的には、必要に応じて選手から手話言語通訳者を呼ぶ方式を取ります。

例：対戦終了後、練習相手からのアドバイスを受けるときなど。

国内大会の場合

・試合開始から終了まで、いつでも手話言語によるコミュニケーションサポートができるような体制を取ります。

・大会によって、試合会場のコートサイドに入れる人数は、手話言語通訳者・コーチ・スタッフの人数が規定されていることがあります。

合宿の場合

JBAD強化合宿は、年間6～7回程度開催され、合宿中の練習（実技）中は、手話言語通訳者は常に待機し、いつでも対応できる体制を整えています。

チームの一員として、主に手話言語通訳業務を担当します。

その他、手話言語通訳の合間など手が空いている時間には、チームスタッフの一員として、他の業務のサポートを担うことがあります。

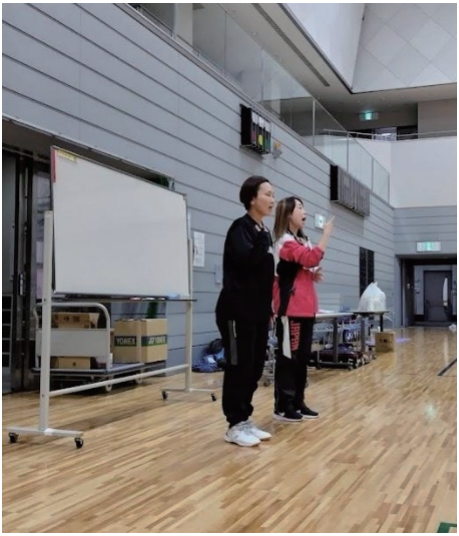
チームワークを円滑に進めるために、チームスタッフそれぞれの役割を明確にし、専門領域を超えた動きはしないように心がけています。

このように、それぞれの役割を明確にすることで、お互いを尊重し、協力し合いながら、よりスムーズにチームとしての活動をしていくことが大切です。

選手たちへのアドバイス・指導、通訳現場の様子

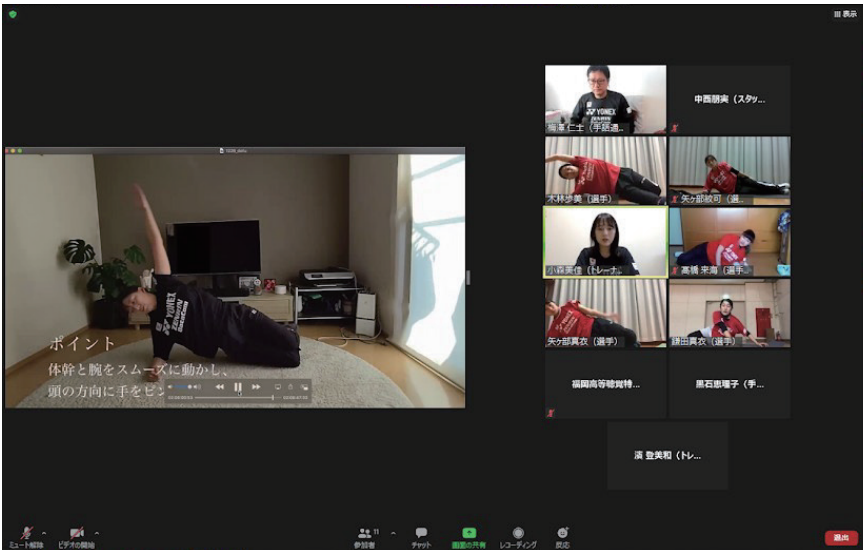
研修会

アンチドーピング、コンプライアンス等をテーマとした研修の様子



オンライントレーニング

トレーニングの様子



国際大会の場合

国外で開催される大会の場合、チームに帯同できるスタッフの数には限りがあり、全ての大会に手話言語通訳者が行けるとは限りません。
これは、コーチやアスレチックトレーナー（AT）についても同様です。

手話言語通訳者の視点

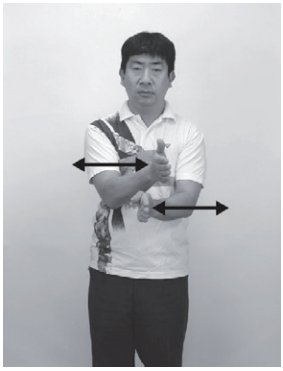
手話言語通訳を知らない選手たちが、情報保障を知る機会を作ることも大切です。
手話言語通訳を介することで、情報量の違いに初めて気づく選手もいます。
また、アドバイスや指導を受けている選手が手話言語通訳を不要とする場合でも、情報保障します。
それによって、他の選手やスタッフが、どんなことを話しているのか把握することができます。
このように、手話言語通訳がいることで、会話が見える化され、目の前の対象者以外でも自由に情報が入手できます。

バドミントン用語の手話表現

QRコードを読み取ると、写真で手話表現の確認ができます。
https://www.jfd.or.jp/sc/deafsports/signs-bad

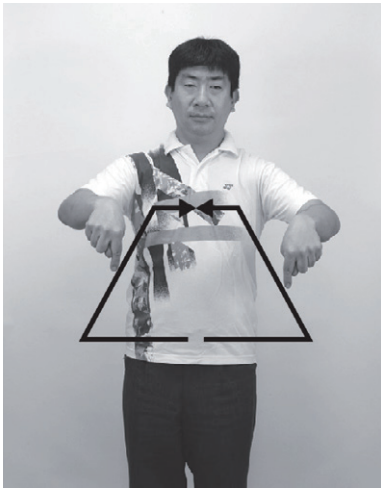
イン
シャトルがバドミントンコートのライン内に落ちること。
コートラインにシャトルの先端が触れていた場合もインになる。

アウト
コートの外にシャトルが落ちること。



インターバル

ゲームとゲームの間の時間。水分補給や休憩、指導者からアドバイスを受けるための時間。どちらかが11点先取した時点で60秒以内、チェンジコート間は120秒以内。時間以内にコートへ戻らなかった場合、失格となる。



コート

バドミントンの試合を行うための長方形のエリアのこと。

シャトル

シャトル（正式名：シャトルコック）とは、バドミントンで使われるボール代わりの羽のこと。

レシーバー

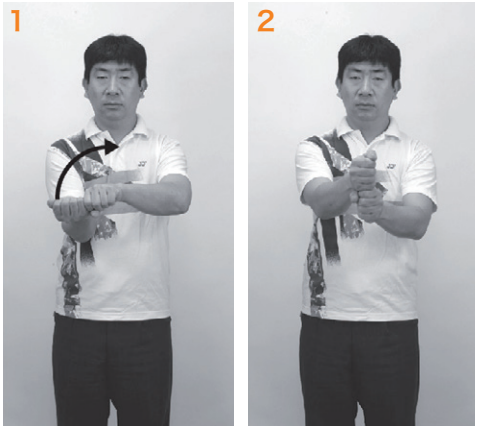
サービスを受ける側の選手のこと。

ラケット

バドミントンのシャトルを打つための道具のこと。

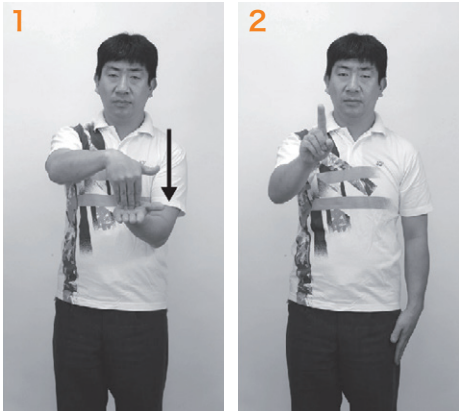
フォルト

バドミントンにおける反則行為のこと。サービスでシャトルがネットに当たった時や、2度打ちしてしまったときなどがフォルトの対象となる。



レット

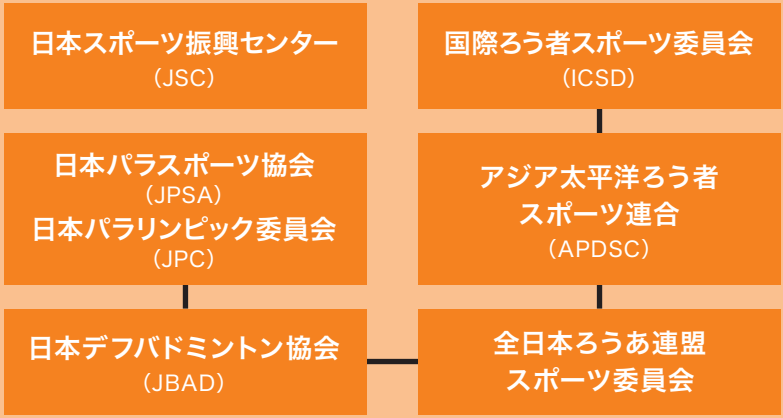
プレーを中断し、やり直すこと。



マッチポイント

そのポイントを取れば試合に勝利となる得点のこと。

［組織］



一般社団法人 日本デフバドミントン協会

日本デフバドミントン協会は、2002年に設立しました。当初は「日本ろう者バドミントン協会」として活動し、23年にわたりデフアスリートと共に国際大会へ挑戦してきました。1997年のデフリンピック（デンマーク）初出場、2001年の金メダル獲得を経て、2018年には一般社団法人として新たなスタートを切りました。現在では、初心者からトップアスリートまで幅広い会員が所属し、バドミントンを通じて交流を深めています。私たちは、デフスポーツの普及、組織の強化、そして競技力の向上を目指し、日々活動しています。

［編集協力］
一般社団法人日本デフバドミントン協会
https://jbad.or.jp/

デフアスリートをささえる
競技別手話言語通訳ガイド［バドミントン編］

発行日　2025年3月1日
発　行　一般財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会
TEL：03-6302-1430
FAX：03-6302-1449
メール：jfd-sc@jfd.or.jp
URL：https://www.jfd.or.jp/sc/

このガイドブックは、令和６年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導・普及等のためのマニュアル等の作成）」の一環で作成しました。

デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成等に係る検討委員会・専門部会 委員名簿

国立大学法人筑波技術大学 教授 … 大杉 豊
一般社団法人日本手話通訳士協会広報委員 … 立石 聡子
一般社団法人日本デフバドミントン協会 … 中西 潤
一般社団法人日本デフバドミントン協会 … 黒石 恵理子
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員 … 稲葉 智子
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員 … 森田 英昭
編集担当 … 高野 大輝